

冬十月丁酉新割陸奥國三上至錫二郡餘
出羽國三上代矣錄三十三之卷之三十二年
六月条下に三上郡擬大飢伴貞道云々
郡の事と見へるなり但中安は所を以て擬
の加へるなりや日本通史に云ふに檜楢小野
雲泉文屋有房等秋田よりて賊徒討伐し
時加勢とて朝家より被地へをさるる
人なり尚郡の材木の事未考言ふ六万八千
二百石戸沢上総代に領之郡中の大
邑を彩花といふ又奥郡境の方に西彩花と

いふあり彩花よりハ東方之奥郡といふ
是を以て考れば古陸奥に属し之を以て是
對するにありて彩花といひいふなりや
産物紅花蕎麥蠟漆温石交響子大豆
檜楢

一彩花城

古城として経略の年記詳ならずを戸沢上
総代に代へて居たり續太平記亦三上
経略者更勝政將軍執政公ハ加勢の
將を催されしより又戸沢とありハ當城

新築
大正
八